

令和7年度学校評価 結果報告について

学校評価委員会

成果（☆）と課題（□）及び今後へ向けた改善策（○）について

1 成果

- ☆保護者アンケートの全体集計では、全ての項目で A・B 評価が90%以上であることから、今年度の学校運営については適切な取組をしていると評価されたものと受け止める。
- ☆保護者アンケート No.9 について、C・D 評価が7.8%（R6：28.7%）と19.9ポイントの改善が見られた。学校だよりや学部だよりに加え、情報教育だよりを発行し、ICT 機器を活用した学習活動を紹介したことが要因として考えられる。
- ☆自由記述で肯定的な意見をいただいていることについて、これまでの教職員の努力のたまものと受け止めて、周知・確認しながら今後も継続していけるよう努めていく。

2 課題及び今後へ向けた改善策（評価C・Dが20%以上の項目について）

（1）教職員自己評価 No.24 について（※評価C・D〈22.8%〉）

- 教職員自己評価【24】について、昨年度よりも5.9ポイント評価が下がっている。各学部において、地域の人材や近隣の施設等を活用した教育活動を展開しているところであるが、実践している活動が評価の対象として認識されていない可能性がある。評価が最も低い項目であることを受け止め、今年度の振り返りを基に、どのような地域の人材や資源が必要か、更なる学習活動の充実を図っていく必要がある。
- 実践している事実を、教職員全体で“見える化”し、共有して再認識するとともに、どのような地域の人材や資源が必要か情報を収集しながら、更なる学習活動の充実を図っていく。
- 学校運営協議会を設置したことにより、地域との関りを有効利用した更なる展開に期待する。

（2）保護者アンケート回答方法について

- 回答率が41.8%（R6：63.3%）と昨年度よりも21.5ポイントの低下であった。学部別でみると、小学部56.4%（R6：73.3%）、中学部34.4%（R6：55.3%）、高等部28.9%（R6：57.5）であった。今年度よりアンケートフォームによる回答方法に切り替えたことが要因と考えられる。今後、回答率を上げる手立てを講じる必要がある。
- 「学校メールや紙のお知らせなど、複数の経路で案内を重ねる」「回答期限が近づいた際にはリマインド通知を送る」など、通知方法の強化を図る。
- 保護者全体会や学部懇談会でオンライン回答の意義を説明し、協力を依頼する。
- オンライン化の利点を活かしつつ、保護者が回答しやすい環境づくりと丁寧な周知を行うことで、回答率の改善を図っていく。